

FUTABA COMMON GROUNDS

双葉まちごと公園プロジェクト／まちを、少しずつ公園にする。

福島県双葉町。あれから15年、震災と原子力災害をへて、駅周辺の避難指示解除から3年。まだこの町に帰って来れない方々が持つ「空き地」を「公園」にして、風景や記憶を守り、作っていく民間主体の取り組みです。

一般社団法人 双葉まちごと公園（設立準備中）



協賛のご案内

目次

MOKUJI / CONTENTS

本資料は4部構成です。双葉町の「いま」から、私たちの構想、組織の体制、そして協賛の具体までを順にご紹介します。

PART 01	いまの双葉 WHERE WE ARE — TIMELINE · HUBS · VOICES あれから15年 2011→2025の時間軸 現在の主な復興拠点 町民の声	P. 03-06
PART 02	構想 THE CONCEPT — VISION · PROJECT · PLACES まちを、少しずつ公園にする 現在の課題 私たちの構想 事業スキーム はじまりの3つの場所 目指すもの 風景イメージ	P. 07-13
PART 03	組織と人 THE TEAM — BOARD · ADVISORS · STRUCTURE これまでの経緯 非営利プラットフォーム 理事メンバー アドバイザー・応援メッセージ	P. 14-18
PART 04	参画 HOW TO ENGAGE — SPONSORSHIP · ROADMAP · CONTACT 5つの関わり方 協賛プログラム概要 協賛ティア 協賛先メニュー 中期ロードマップ お問い合わせ	P. 19-24

01

あれから 15 年。

PROLOGUE / はじめに

— そして、解除から3年。

2011年3月11日。双葉町は震度6強の揺れと津波、そして原子力災害により、町ぐるみで避難を余儀なくされました。2022年8月、駅周辺の特定復興再生拠点で避難指示が解除され、町は少しずつ動き始めています。

けれど、震災前の人口およそ7,000人に対して、いま町に暮らす人は約200人。戻りたい人、戻れない人、はじめて関わる人。それぞれの距離を抱えながら、町の「これから」は、まだ描きかけの状態にあります。

この資料は双葉町の「これから」をみなさんとも一緒に考え、作っていくためのご案内です。

十五年。
あれから、

あの日からの、 町の時間。

A 15-YEAR TIMELINE · 2011 → 2025

震災・原子力災害から避難指示解除、そして現在に至るまで。町の時間を、断絶ではなく一本の線として記録します。

2011.03.11 — FRI 震災当日 14:46 双葉町は震度6強 15:30 津波により約3㎥浸水 19:03 原子力緊急事態宣言発令 21:23 第一原発から半径3km圏内 避難指示／10km圏内 屋内退避 震度 6強 津波・原子力災害の三重の被災。	2011.03.12 — SAT 全町避難 05:44 半径10km圏内住民に避難指示 07:30 町災害対策本部で全町避難を決定 14:00 双葉町役場を閉鎖 15:36 第一原発1号機原子炉建屋爆発 全町避難 役場機能を町外へ移転。	2022.08 — SUMMER 解除 — 特定復興再生拠点区域（駅周辺など）避難指示解除 — 双葉町役場仮庁舎開庁 11年7ヶ月 避難指示解除までの月日。	2025.03 — NOW 現在地 — 現在の居住者 約180人 — 震災直前の人口 約7,000人 — 復興拠点整備が段階的に進行 約200 / 7,000 「ここから」の数字。
--	--	--	--

現状の主な復興拠点。

CURRENT RECONSTRUCTION HUBS

2022年の解除以降、住まい・働く・記憶を継承するための拠点が段階的に整備されつつあります。



01 えきにし住宅

災害公営住宅・再生賃貸住宅。復興と帰還促進のため整備され、全86戸で構成される。

02 中野地区 復興産業拠点

復興の働く拠点として整備され、現在は約25事業者が進出している。

03 復興祈念公園

震災の記憶継承と追悼の場として整備され、2026年4月25日に全面開園した。

04 MEMEGURU FUTABA

2026年オープン、公設の商業施設。飲食店などが入る。

※ 地図中の中間貯蔵施設・東京電力福島第一原発は、位置関係の参考として示したものです（「拠点」には含みません）。廃炉・除染の長期作業が続いています。

町に関わる人たちの、 10の言葉。

VOICES FROM THOSE WHO CARE

町民・関係人口・町外の専門家から集まった声。私たちの構想は、
ここから出発しています。

" 個人の才覚がまちをつくる。卓越したリーダーが出てきてほしい。		" 今あるものから価値を見出す。	" 双葉町のことを想っている人は、いつまでも双葉の人だと思う。
" 祭りから復活させる。	" 広大な土地を、車やドローンなど新しい交通システムの試験場として活用する。	" 人類全体が考えるべき問いが得られる場には、価値がある。そのための環境は、心に訴えるようなものであるべき。	" 将来の子供達に教訓を。
" 先駆的地域社会。それは成長志向ではないけれど、心豊かに暮らせる社会の形。	" いかに住民を主役にするか。時間をかけても地域住民目線でのグランドデザインを描いていくべき。		" 街の様子を見に来る元町民を増やす。

私たちが、つくりたい町。

VISION
2026

まちを、少しずつ 公園にする。 空き地が、関係に変わる。

この町の記憶と風景を守りながら、関わりや賑わいを生み出したい。

2050年の双葉町に、どんな暮らしの土台を残していくか。土地と風景を次の世代へつなぐ都市計画を考える、
先駆的な地域社会の実験です。

一般社団法人 双葉まちごと公園（設立準備中）

いま双葉町の風景が抱えている 3つの課題。

CURRENT CHALLENGES · LAND & LANDSCAPE

震災と原子力災害がもたらした影響は、いまでも土地のかたちと、
所有者の心に重く残っています。

CHALLENGE — 01

帰還したくても すぐに戻れない 町民／固定資産税負担の再開。

長い避難生活のなかで、多くの町民は町外に生活の基盤を築いてきました。これまで減免されてきた固定資産税の負担が再開されることとなり、戻ることも貸すことも管理することも簡単ではない。故郷への思いを残したまま、活用の見通しが立たない土地に負担だけが戻ってくることは、所有者にとって大きな課題です。

CHALLENGE — 02

建物が撤去され、残された空き地。

震災と原子力災害により、多くの町民が長く故郷に戻れない時間を過ごしてきました。そのなかで、被災家屋の解体や生活再建の制度を利用し、それぞれの事情のもとで自宅を手放す決断も重ねられてきました。双葉駅周辺には今、かつて暮らしがあった場所に広大な空き地が広がっています。

CHALLENGE — 03

起こりうる風景に対する、 危機意識。

空き地となった土地を、太陽光発電事業者などが取得する動きも始まっています。活用や管理の手が入らなければ荒地化が進む可能性もあります。双葉町の風景をどう守り、次の形につなぐのか。いま、その判断が求められています。

空き地を 都市公園にすることでの課題解決。

双葉町の風景を守りながら、町への関わりを生み出す仕組みとして、
都市公園制度の活用を検討します。

OUR PROPOSAL · TURNING VACANT LAND INTO CIVIC PARKS

1

空き地を、暫定的活用として「都市公園」化する。

双葉町が一定期間（10年等）借り上げて借地公園とする。空き地を都市公園に指定することで、空間の使い方が自由になり、土地所有者は税の減免が受けられる。また町の未来への関与方法について時間的な猶予を得ることができる。

2

維持・管理・運営は、民間／市民の団体が主体的に行う。

管理／活用を民間／市民に委ねる制度の創設を、早期に目指す。双葉町で暮らした記憶を持つ人たち、並びに双葉町の状況を自分ごとと捉えられる町外の人々が、これからをどうしていくかを一緒に参加して自治していく体制をつくります。

3

地権者の申し出を受け、徐々に増えていく。

いきなり全域を、ではなく、はじまりの3つの土地からスタート。地権者の意向を尊重しながら、対象地を段階的に拡大していきます。

4

地域内外の事業者・団体が、様々な活動・プロジェクトを生み出す。

庭として、遊び場として、学び場として——。公園の活用・管理・運営は、町の内外の民間事業者が担うことで面白い事業が展開可能になります。

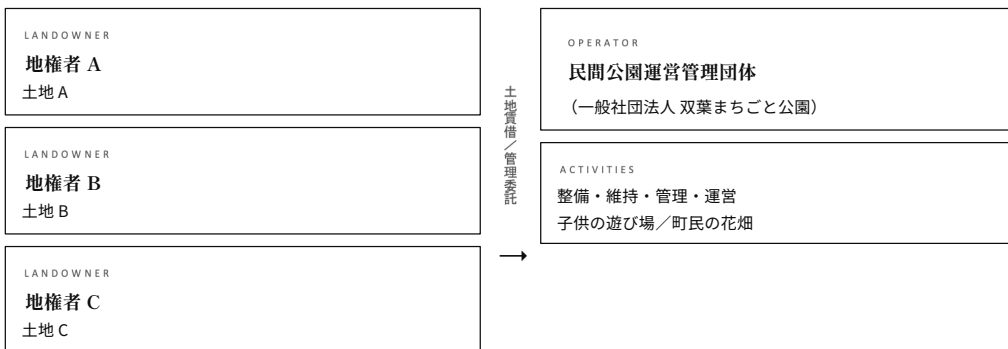
事業スキーム。 パイロットから、制度化へ。

パイロット期は社団法人が直接管理。
並行して「行政借上げ・公園指定・民間管理委託」の制度化に働きかけます。

BUSINESS SCHEME・PILOT → INSTITUTIONAL

当初の運営スキーム

PILOT・2026 →



制度化後のスキーム

INSTITUTIONAL・2028-29 →

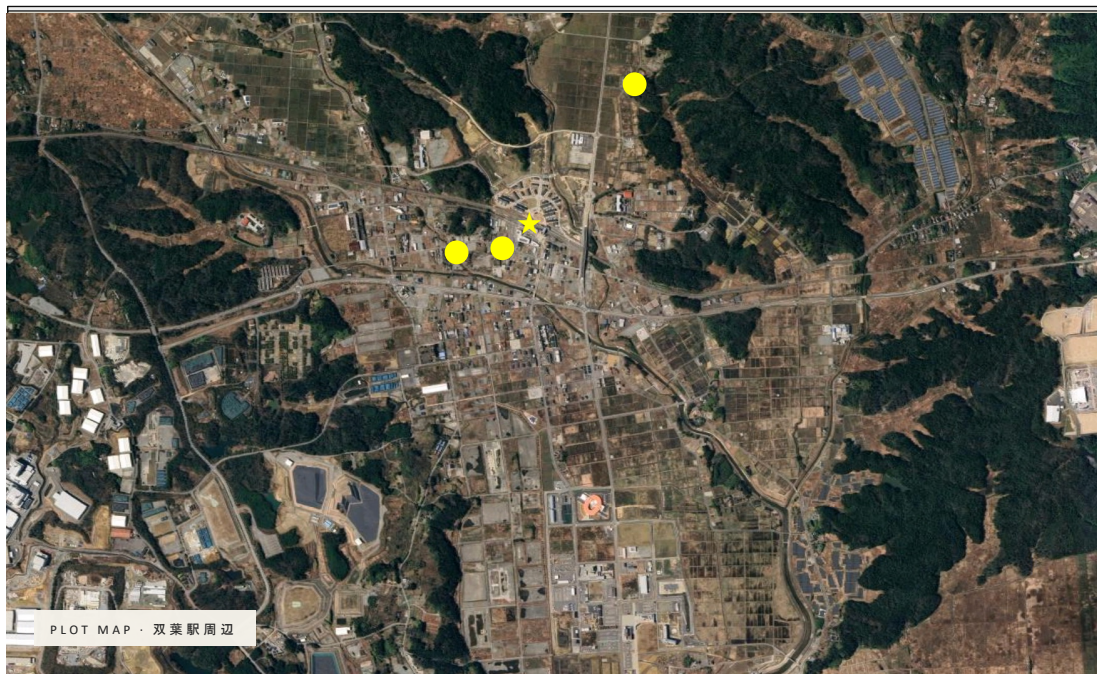


パイロットプロジェクトとして社団法人が管理受託（または借上げ）を行い、公園“的”な活用を進めていきます。並行して「行政借上げ・公園指定・民間管理委託」が制度化されるよう、行政への働きかけを継続します。

はじまりの、 3つの土地。

THE FIRST THREE PLOTS

双葉駅・駅西住宅の近く。すでに地権者の意向を確認しつつあるパイロット対象地です。



01 K土地

SHIN-YAMAMOTOCHO

新山本町

約600 m²

APPROX.

02 T土地

NAGATSUKA

長塚町

560 m²

EXACT

03 A土地

NAGATSUKA-KOSHIDA

長塚越田町

320 m²

EXACT



双葉駅／駅西住宅

隣接

近隣の主要拠点と歩いてつながる立地。

私たちが目指す、 3つのこと。

THREE PILLARS · LANDSCAPE / RELATIONS / SELF-GOVERNANCE

双葉町の将来像は、まだはっきりと定まらない。そのための暫定期間の活用として、公園化を進めます。

PILLAR — 01

ここにしかない 風景をつくる。

LANDSCAPE

COMMON GROUNDSは、ただの遊具のある「公園」を意味しません。美しい庭や花畑かもしれない生産の場、遊びや学びの場かもしれない。様々な活かし方が生まれることで、他にない風景が生まれていきます。

PILLAR — 02

関わりを、生み出す。

RELATIONS

「誰も入れない土地」を「みんなの場所」として開いていくことで、新しい関わり場となります。元住民が地元を訪れるきっかけ、外の人が訪れ関わるきっかけ、そして何かをここで始める意思のきっかけになる。

PILLAR — 03

「新しい自治」を担う。

SELF-GOVERNANCE

COMMON GROUNDSの計画や運用は、行政に任せるのではなく、街の人や関わる人たちが自ら決めていきます。まちの空間をどうしていくのかを自分たちで決めていくことから、本来の「自治」が生まれていくことを目指します。

非営利地域 プラットフォーム

「空き地」と「土地所有者・行政・事業者」を再接続し、町に思いを寄せる人のサポートを集めることで、双葉町の風景を中長期的に守る非営利プラットフォームとなることを目指します。

NON-PROFIT REGIONAL PLATFORM ・ (一社) FUTABA COMMON GROUNDS

FEATURE — 01

非営利プラットフォーム

町内に点在する空き地・地権者・住民・関係人口・事業者・行政を「再接続」する地域基盤として、一般社団法人を設立し、非営利性をもって、町の未来をどうよくできるかを各方面と相談しながら運営していきます。

FEATURE — 02

事業・サービスの公募

事業内容は固定せず、アイデア・実施者・資金計画を一般から公募。住民や役場とも連携し、制度整備を推進します。

FEATURE — 03

開かれた参加

町内外を問わず、双葉町の未来に関心を持つ人なら誰でも参加可能。常住人口だけでなく、双葉町のことを自分ごとと捉えて参加を希望する多くの方も参加できる仕組みを設計します。

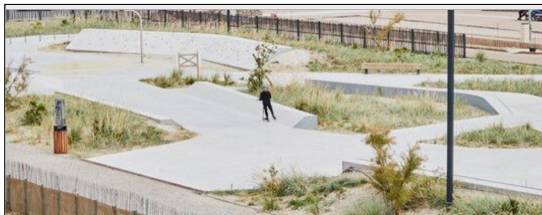
町内に住む方々の意思を尊重すること

これからの双葉町に実際にコミットし、将来に直接影響を受ける立場の声を重視すること

町の空き地に、 生まれていく風景。

LANDSCAPES THAT COULD EMERGE

同じ「公園」でも、使い手と関わり手次第で、まったく違う風景が立ち上がります。ひとつの正解ではなく、複数の余白として。



01

X-SPORTS の自由なフィールド



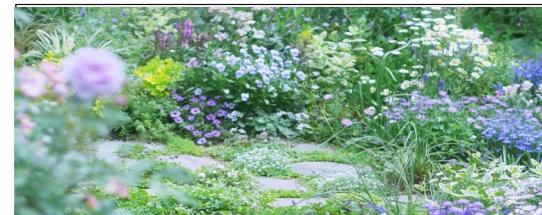
02

双葉町の風景を生かしたランドアート



03

企業による、子供のための遊び場



04

ハーブガーデン／Natur Park



05

オープンエアの美術館



06

植樹による、自然風景の再生



07

町民の花畑・コミュニティ庭園



08

そして、まだ名前のない風景。

5つの活動が、 ひとつの構想に。

HOW WE CAME TOGETHER

町に関わる5つの個別の活動が、それぞれの時間軸を経て、FUTABA
COMMON GROUNDS構想へと合流しました。

**佐々木 晶二**

SASAKI SHOJI

都市計画家／元国土交通省

国土交通省在籍時から東日本大震災の復興計画に携わり、
双葉町の復興支援を行ってきた。

**高崎 丈**

TAKASAKI JO

高崎のおかん／双葉町出身

壁画プロジェクト Voice for Futaba を企画・実行。実家
の建物を開いて、双葉町に人が集まる機会をつくってきた
。

**官林 春奈**

KANBAYASHI HARUNA

FUTABA PEACE合同会社／双葉町出身

映像を通して被災地支援活動を続ける中で、再び故郷・双
葉町に戻り起業。人を繋ぎながら町の未来を考える。

**林 厚見・嶋田 洋平**

HAYASHI / SHIMADA

株式会社SPEAC／らいおん建築事務所

双葉町の委託で、50年後の仮ビジョン検討や情報発信業務
に携わる。

**江良 慶介**

ERA KEISUKE

株式会社 kurkku alternative

2024／2025の二度の FUTABA COMMON GROUNDS カ
ンファレンスを企画・オーガナイズ。

— 5つの活動が合流し、FUTABA COMMON GROUNDS 構想へ —

テクニカル・アドバイザーと、 応援メッセージ。

構想を実装に落とし込むアドバイザーと、復興庁から本構想に寄せられた応援メッセージをご紹介します。

TECHNICAL ADVISOR & ENDORSEMENT

TECHNICAL ADVISOR / テクニカル・アドバイザー



町田 誠 氏

元 国土交通省 公園緑地・景観課長／（一財）公園財団 常務理事

国交省で都市・公園行政に従事し、ジャパンフローラ、愛知万博、全国都市緑化フェア TOKYO GREEN等の大型イベントで会場整備やプロデュース・プロモートに携わってきました。

FUTABA ALTER:NATIVE PARKプロジェクトでは、都市公園制度の実装を支えるテクニカル・アドバイザーとして参画します。「使いながらつくる」公共空間のあり方を、制度の側面から伴走していきます。

すべての制度は、社会や地域の幸福の総和を最大化するために存在していると信じています。双葉町に幸福の風景が広がっていくよう、皆さんと頑張っていきたいです。



古橋 季良 氏

復興庁 審議官／RECONSTRUCTION AGENCY・DEPUTY DIRECTOR-GENERAL

”

東日本大震災と原発事故から15年。町の主要部分の避難指示解除が2022年だった双葉町の本格的な復興は、まだ始まったばかりです。世界でも例のない、原子力災害からの復興という困難なミッションに対応するためには、前例のない取組が必要です。

「FUTABA COMMON GROUNDS」という、民間が主体となって構想した、長期的な視野に立つ試み。双葉町に住まう人、訪れる人の心に響き、人口減少・高齢化に直面する全国の自治体に広がっていく取組に発展することを期待しております。

関わり方は、 5つ。

FIVE WAYS TO ENGAGE

あなたの立場・関心に合わせて、無理のないかたちで参画いただけます。

ひとつでも、組み合わせでも。

01

社員になる

一般社団法人双葉まちごと公園の社員となる。議決権を持ち、公園づくりに参画。関与度合いによってA/B/C社員の3区分。

年会費 1口 3,000円～（学生 1口 1,000円～）
活動への参加で区分変更

02

資金で 支援する

企業協賛・個人寄付として、プロジェクトに資金協力。

企業協賛（5ティア）
個人寄付（一般／特定PJ）

03

土地・建物を 提供する

空き地・施設の貸付や寄贈で、双葉町の風景再生に貢献。

土地の貸付・寄贈
土地の管理委託
建物・施設の提供

04

活用主体と なる

空き地で事業を実施したり、イベントを主催する。

空き地での事業企画・運営
イベント主催・共催

05

スキル・モノで 支える

プロボノ・現物提供・人材派遣など。資金以外の支援も歓迎。

プロボノ
現物支給（資材など）
社員派遣・共同研究

協賛の仕組み

SPONSORSHIP MENU ・ ALLOCATE BY INTEREST

6つの領域から、御社の関心に合うものをお選びください。

MENU — 01 公園区画開発 ¥1,000,000～¥5,000,000 ～ メイン広場／お花畑／休憩所／遊歩道 (presented by 表示)	MENU — 02 シンポジウム ¥500,000～¥10,000,000 はじまりアパートメント／メイン冠スポンサー／一般協賛	MENU — 03 体験ツアー ¥1,000,000～3,000,000 ～ 冠スポンサー／一般協賛 (社員向け専用ツアー有)
MENU — 04 R&D ・ 調査研究 ¥1,000,000～¥3,000,000 ～ リサーチパートナー／協賛 (共同研究クレジット)	MENU — 05 出版・メディア ¥500,000～¥2,000,000 ～ 出版スポンサー／協賛 (書籍クレジット・献本)	MENU — 06 ・ TOP 法人冠 (最上位) ¥30,000,000 「〇〇presents FUTABA COMMON GROUNDS」 (1社限定)

★企業社員制度

ブロンズ以上の企業は、社員を本法人「企業社員」として登録可能。社員総会の議決権を持ち、双葉町の自治実験に当事者として参画できる、画期的な仕組みです。

CORPORATE
MEMBERSHIP
PROGRAM

5つの、 パートナーティア。

FIVE PARTNER TIERS

合計協賛金により自動的に決定されます。PLATINUM は1社限定、
GOLD は競合排除あり。

ティア	合計協賛金	枠	主なリターン
PLATINUM 1社限定	¥30,000,000 ~	1社	全媒体最上位ロゴ／公園サイネージ／視察ツアー／企業社員枠10名
GOLD 競合排除あり	¥5,000,000 ~	—	主要媒体ロゴ／シンポ企業紹介／公園サイネージ／企業社員枠5名
SILVER	¥2,000,000 ~	—	主要媒体ロゴ／年次報告／企業社員枠3名
BRONZE	¥1,000,000 ~	—	Web・SNSロゴ／年次報告／企業社員枠1名
SUPPORT	¥300,000 ~	—	Web・年次報告 社名掲載／ニュースレター配信

★企業社員制度／ブロンズ以上の企業は、社員を本法人「企業社員」として登録可能。社員総会の議決権を持ち、双葉町の自治実験に当事者として参画できる画期的な仕組みです。

スケジュール

パイロットから、本格展開へ。

パイロット開始から制度化、本格展開まで。
御社の参加タイミングは、いつでも結構です。

MID-TERM ROADMAP · 2026 → 2030

PHASE 01 — NOW

PHASE 02

PHASE 03

PHASE 04

2026

パイロット始動

一般社団法人設立
はじまりの3土地で試験運用
協賛・寄付の募集開始

2027

活動拡大

対象土地の段階的拡大
初年度活動レポート公表
ステークホルダー会議

2028–29

制度化への移行

都市公園指定の正式申請
行政連携の本格化
管理委託制度の確立

2030–

本格展開

他地域・他自治体への展開検討
中期目標の達成評価
持続可能な運営体制の確立

※ 各フェーズの開始時期は社会情勢・制度状況に応じて柔軟に調整します。

町をいっしょに描きませんか。

ご関心をお持ちいただいた方は、まずはお気軽にご連絡ください。

オンライン／現地での個別ブリーフィングをご案内いたします。

— 一般社団法人 双葉まちごと公園（設立準備中）

01 資料・詳細情報のご請求

より詳細な事業計画書、予算案、過去レポートをご提供いたします。

02 個別ブリーフィングのご予約

理事による 30～60分のオンライン／対面説明会を随時ご案内しております。

03 現地視察のご案内

双葉町現地での視察ツアーを、個別または小グループ単位でアレンジいたします。

CONTACT

COLOPHON / お問い合わせ窓口

事務局 一般社団法人 双葉まちごと公園（設立準備中）

担当 嶋田 洋平

EMAIL

WEB <https://futaba-commongrounds.jp/>